



長野県福祉大学校便り

令和7年12月
第28号

ひまわり祭

10月24日(校内祭)25日(一般公開)に第31回ひまわり祭を開催しました。文化祭(ひまわり祭)は、学生の自主性向上や学生間交流に合わせて、学習活動や学生の様子について保護者や地域の方々に知っていただくことを趣旨としています。今年のテーマは「百花繚乱 一人ひとりの個性を輝かせ笑顔の花を咲かせよう」で、当日はたくさんの笑顔の花が咲きました。皆様、ありがとうございました。

学生のコメント

文化祭に向けて、全員で協力しながら準備を進めました。特にステージ発表では、ダンスだけでなくピアノや太鼓など様々な発表があり、全校の学生がグループごとにたくさん練習を重ねてきました。もちろん課題もたくさんありましたが、学生や来てくださった人達が笑顔で楽しめる文化祭になったと思います。また、学生だけでなく先生方や地域の方々などたくさんの人達に協力していただいたおかげで、素晴らしい文化祭ができました。



実習で忙しい中、準備時間も少なかったのですが、最後の文化祭！クラス全員でステージ発表にも出てみんなで楽しく踊ることができました。今年度は文化祭に併せて「ふくしニア」を開催し(キッザニアの福祉のお仕事バージョン)200名を超える多くの方に来場していただき、福祉や保育の仕事を体験してもらいました。最後の文化祭、楽しい思い出を作ることができました。ありがとうございます！

(文化祭実行委員長 坂巻 芽生)

福祉大での初めての文化祭では、準備の大変さを感じる一方で、自分たちが考えた企画が成功し、多くの方に楽しんでもらえたことに大きな喜びと達成感を得ました。また、自分たちで声をかけ合って集まった吹奏楽メンバーと共に、2日間にわたり演奏できることも印象に残っています。初心者から経験者まで音楽を通して自分たちも楽しめ、聴いて下さる方々にも楽しんでもらうことを目標に何度も練習を重ね、本番を迎えることができました。ステージ発表やクラス展示などみんなで一つの目標に向かって裏で努力し、文化祭を盛り上げることができた経験は、より仲間との絆を深めるとともに、協力することの大切さを改めて感じる良い機会になりました。

(保育学科1年 可知 健奈)



介護福祉学科

「授業風景」

介護福祉学科では、福祉用具について学ぶ授業があります。福祉用具は介護保険サービスの一つです。最新の福祉用具を学ぶため、福祉用具の事業所見学に行き貸与の流れを学んだり、下諏訪町で行われた福祉機器展に全員で参加してきました。

福祉用具は「日常生活上の便宜を図るための用具及び機能訓練のための用具であって、要介護者の日常生活の自立を助けるためのもの」です。見学を通して、用具の説明や使い方を学び、様々な福祉用具を知ることができました。

福祉用具は定期的に追加や見直しが行われるため、最新情報の確認が必要になります。用具を用いることで、利用者の自立支援や生活の質を高めていけるよう更に学び続けていきたいです。 (高林 敦樹)



「実習風景」

初めて行く施設、利用者にどう接してよいか戸惑うこともあります。しかし、実習を重ねる中で利用者との関わり方も少しづつ身につけることができました。

今、私たちは最後の実習の真っ最中です。担当利用者を受け持ち、利用者の望む生活を目指して、日々悩みながらも計画を立案し、実施しています。日々いただく「ありがとう」や「うれしい」の言葉に励まされながら実習をしています。悩むことが多い実習ですが、多くの実践的な学びや技術の向上ができる場だと思います。実習させていただいている施設や利用者への感謝の気持ちを忘れずに、これからも取り組んでいきたいです。

(小笠原 瑞季)



「地域回想すごろく」

地域のみなさんと一緒に諏訪市内のまち歩きをして「地域回想すごろく」を作成しました。

地域の皆さんから地域の豆知識を教えてもらい諏訪市の魅力をぎゅっと詰め込んだオリジナルのすごろくを使って、認知症カフェや回想法実践など、みんなで楽しく交流しました。

1月には最終完成版が出来上がります！



祝 福祉のしごとPRコンテスト2025 動画部門 特別審査員賞受賞！

福祉のしごとPRコンテストとは、福祉のしごとを、よりオープンに、もっと身近に感じてもらえるよう、たくさんの素敵な福祉のしごとのエピソードを動画や写真で伝えるコンテストです。参加対象者は福祉系高校生、介護福祉士養成校学生、福祉施設等の職員です。

福祉のしごとPRコンテストにおいて特別審査員賞をいたたくことができ大変嬉しいです。最優秀賞には届きませんでしたが、評価していただき大変励みになりました。

作品作りでは、授業や実習で感じた福祉の楽しさや魅力をどう伝えられるか考え、楽しみながら取り組むことができました。今回の受賞で学びが少しづつ形になっていると実感することができ、これからも前向きに学び続けていきたいです。 (鈴木 未羽)



保育学科1年生



「入学してから半年がたって」

福祉大学校に入学して半年がたち思い返せばあっという間の毎日でした。最初は授業についていけるか不安もありましたが、クラスの友達と支え合いながら楽しく学ぶことができています。実際に演習ではふくしだい保育園の子どもたちに初めての読み聞かせをしたり、自分たちで演習内容を考えて子どもたちと遊んだりと緊張や不安もありましたが、やりがいも感じました。

これからもたくさんのこと学びながら、自分の目指す保育士になれるように、笑顔を忘れず頑張っていきたいです！（浦野 さくら）

「乳児実践で実際に子どもたちと関わって」

9月から10月にかけて諫訪市内の保育園で未満児保育を体験しながら学びました。実際の現場で援助することに緊張した学生も少なくないでしょう。講義で学んだことを実践的に学ぶ機会になりました。

乳児実践では、遊びやおむつ替え、午睡の援助などを実際に保育園の先生方を見て一緒にやってみることを通して、乳児の生活リズムや保育者の役割について学びました。

おむつ替えや午睡の場面では、特に信頼関係の大切さを感じました。言葉がまだ通じなくて、笑顔や声のトーン、子どもに寄り添った言葉掛けによって、安心感や信頼関係が築かることを実感しました。

今後の実践でも、今回学んだことを生かして子どもが安心できる保育を目指していきたいです。（横内 心優）



保育学科2年生



「ふくしだい保育園の運動会」

併設されているふくしだい保育園の運動会に企画から運営まで参画して学ぶ授業がありました。企画段階から関わった行事が成功した時の感動は、一入です。このほか、ふくしだい保育園の子どもたちとは日頃から交流しており、学生にとっては「癒し」であり、実践力を身に着ける貴重な機会となっています。



今年の運動会は室内で行われ、未満児から年長児までの園児が参加しました。パラパルーンやダンス、かけっこなど、どの競技にも一生懸命取り組む姿がとても印象的でした。年長児と保育学科2年による組体操では、心をひとつに頑張る姿が感動的で、リレーではお互いに本気で走り楽しむ姿に笑顔があふれました。保育者の方々と協力し合い、心を合わせてつくり上げた温かい運動会になりました。（有賀 珠月）

地域実践演習での体験



学生のコメント

地域実践の授業で「SUWAガラスの里」に行き、キャンドルづくり体験と北大路魯山人展の見学をさせていただきました。キャンドル作り体験では、沢山のパーツや砂の中から自分が好きなものを選んで、オリジナルのキャンドルを作りました。沢山悩みましたが、全員がオリジナルの可愛いキャンドルを作ることができました。また、北大路魯山人展を見学させて頂き、綺麗な陶芸作品や力強い書道作品を見ることができました。

今回の授業を通して、芸術性高い陶芸作品に触れたり、学生それぞれの素敵なキャンドルを作ったりでき、思い出深い体験になりました。支援していただきありがとうございました。（渡辺 光）



「地域実践演習」という授業の一環で地域の方々との交流を通して諫訪地域の特徴について学ぶ機会があります。同窓会からのご支援をいただき、丸井伊藤商店で味噌作り、ニデックオルゴール記念館すわのねでオルゴール作り、しもすわ今昔館おいでやで時計作り、北澤美術館で美術作品鑑賞、SUWAガラスの里でガラス美術製作等を体験させていただきました。

学生のコメント

北澤美術館を見学させていただきました。館内ではガラス工芸や絵画など、さまざまな芸術作品を鑑賞することができました。特に印象に残ったのは、ガラスでつくられたお花やとんぼなどの繊細な模様です。細かな部分まで丁寧に表現されていて、ガラスという素材でここまで表現できることに驚き、作り手の技術の高さや作品に込められた思いを感じました。今回の見学を通して、芸術には見る人の心を動かす力があることを学び、貴重な経験を積むことができました。ありがとうございました。（小松 千紗）

